

視察報告書

報告者（無会派） 片野 晶子

1. 視察日	令和7年2月19日（水）
2. 視察テーマ	自伐型林業について
3. 視察目的	森林の所有や管理が、お荷物ではなく価値を生み出すことができる小さな林業の仕組みづくりについて調査するため
4. 視察先	福井市「一般社団法人 美山きときとき隊」
5. 概要	座学および施業済み現場視察
(1) 現行の森林保全の課題	<p>①森林蓄積の増加＝森林伐採の減少 森林面積はここ50年以上ほとんど変わっていないが、森林蓄積は80年間でおよそ3倍にまで増加している→森の老化は森の衰退につながり、「地球温暖化防止機能の低下」「土砂災害の増加」「水源涵養機能の低下」をもたらす</p> <p>②所有者不明林の増加 登記簿上の所有者不明林の割合は「28.2%」、所有者はわかっているが遠隔地在住の不在林者保有森林面積は「24%」、経営管理が行われていない森林は私有林のおよそ2/3まで増加</p> <p>③林業従事者の人手不足・高齢化 林業従事者の数は40年間で70%減少、高齢者率は25%まで上昇</p> <p>※これらは全て現在も進行しつつあるものであり、早急に未来を見据えた策を施さなければならない</p>
(2) 森林施業の必要性と生業としての林業の成立	<p>(1)の課題は林業が経済活動として成立しにくいことに起因しており、森林所有者が受益できる林業の仕組みの構築が喫緊の課題。 現在の林業の主流は、大きな施業体による大規模な林業だが、それでは逆に採算がとりにくく、結果として林業従事者の幅広い継承にもつながりにくい。また、大規模な林業には大規模な投資が必要となり、参入者の障壁となっている。また大規模作業者が入ることのできる作業道が必要となるが、それ自体が山を痛めつけ、結果として災害が起きやすい山林にしてしまっている現実がある。</p> <p>一方で自伐型林業は、他の仕事との兼業で行うことが基本であり作業も1～2人で行うことのできる、例えばDIY的な林業である。軽トラック1台が通れる作業道を小型の重機で自らが整備する（山相や水道を見定める少し専門的な研修は必要）ことから始まるが、その林道は最低限の立木伐採しか行わないため、隙間を縫って比較的密に走っているにも関わらず、意外にも災害に非常に強いことが立証されている。倒した材木は、その場で建築材のサイズにカットし、軽トラックに載せて運び出す。運び出しにおいても林道をうまく配置していることにより作業はしやすく、作業への負担は極めて少ない。ペレットやチップ用材には端材のみを利用し、本体は建築用材として直接市場に持ち込む。建築用材のサイズも確定できている付加価値も加わり、立米単価は9,000円程度で取引されている。契約している山林所有者に配分を行っても、副業としてならば十分に成り立つ。</p>

(3)行政支援について

〈福井市の目指す林業〉

「伐って使って触れ合って未来に引き継ぐ森林づくりの推進」の基本理念の基、中長期的視点で計画を立案及び実施していく。3つのビジョンから福井市の目指す現在 & 未来の林業像を描く。

- ①森林の多面的強化
- ②担い手の確保・育成
- ③林業の成長産業化の推進

⇒これらのことから、自伐型林業は大変に有効な方向性として、福井市は次の市の独自支援制度を設けている。

- ①U・Iターン見学補助金
- ②U・Iターン就業奨励金
- ③自伐型林業大学校
- ④林業経営体ステップアップ事業

自伐型林業を知り、学び、就業して地域に根を下ろし、所有者と契約を交わして作業を行って利益を得る生活スタイルを定着させることが目的であり、現実に自伐型大学校卒業者は地域内外のキーマンとして育成されている。定住するのではなく、技術を学んで他市・他県で就業する若者も多い。その場合は①②④の支援制度は活用できないため、就業地での支援は確実に必要となる。



<p>5. 考察・感想</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今回説明して下さった、ふくい美山きときとき隊代表理事宮田香司氏から、「『山守り』を地域に増やしていく」という表現をされた通り、自身も林業を通して地域の活性化も行っており、そのような人材も育てている。まずは、森林にかかわる人材育成の入口から育成までの制度設計が必要であると感じた。 ・山の状況に合わせて道幅2.5メートルの小さな道を作っていくことで、木を運び出しやすくする。その小さな道は、自然の驚異に対しても強く、また地域の実情に沿った林業ができるという利点があり大変魅力的であると感じた。また、実際に林業を兼業ではじめる方や女性の参加も多いとのことであり、林業の可能性を感じた。 ・森が生かされる仕組みづくりをご自身も運営されながら、大学校で伝えるというスタイルで実施されており、経営という面でも確実に成果を上げられている。 ・福井市の目指す林業のビジョン「きといきる」はどうやって出来上がったのか知りたい。パンフレットも美しくインパクトのあるビジュアルに興味をそそられる。内容あってこそだが、次世代に興味を持ってもらえるか、魅せ方も重要であると感じた。 ・山を持っていても仕方ない、山の木を切ることはいけないことだ…そんな誤解を解いていくことにもこの事業は有効であるし、実際林業に携わる人口が増えていくことは、ウェルビーイングにもつながる。 ・広大な森林面積のある高山市で展開するとなると、どのような課題があるのか。今後も調査を進めていきたい。 <p style="text-align: right;">以上</p>
-----------------	---